

紅ミュージアム 通信

時代をこえて 美が息づく器

[作品展示会のご案内]

「みかわち焼 ～匠の技の継承～」開催

[かわら版]

紅ミュージアム年間スケジュール
期間限定商品のご案内



「山海愛度図会 早く見たい」—勇齋国芳 画
早稲田大学演劇博物館所蔵

諸国の名産を描いた揃物のひとつ。こま絵には平戸の鯨を描く。

時代をこえて美が息づく器

歴史ある「みかわち焼」
長崎県の北部にある町、三川内。佐賀県の有田と長崎県の波佐見にも近いこの地を中心に、みかわち焼は約四百年間、代々受け継がれてきた。

みかわち焼は、古くは「平戸焼」と呼ばれ、十六世紀末、文禄・慶長の役の出兵時に平戸藩主が朝鮮から連れてきた陶工と、唐津から移り住んだ陶工をルーツとする。陶器や、色絵・青磁などの磁器も一部作られるが、みかわち焼の主流を担ってきたのは、なめらかな白磁と、青い絵柄の「染付」磁器だ。十七世紀に、有田の泉山陶石に続き、網代陶石が発見されて磁器の平戸焼が作られた。その後、天草陶石が磁器生産に使われ始め、改良が重ねられた。平戸藩の御用窯では将軍家への献上品も作ったため、装飾的な形と緻密な絵柄の器を作る技が磨かれた。

長い間みかわら焼は欧米

などに輸出され、高い評

価を得た。明治に入ると御

用窯も民間の窯になった

が、長年培った技を受け

継ぎ発展させ、今も時間

をかけて器を作っている。

みかわら焼の陶技

御用窯の技術は大切に

守られ、他の産地とは異

なる個性が磨かれた。み

かわら焼で現在見られる

代表的な伝統技法を以下

にまとめた。

「染付」：呉須(酸化コバルト

が主成分の顔料)を使い、素焼

も好まれている。

「菊花飾細工」：細工技法

の「手捻り」のひとつ。先が

細い竹べらで、立体の花

びらを一枚一枚形作る。葉

はオリジナルの型で作り、

葉脈を足す。特上の陶石

を、砕き方にもこだわって

適度な粘り気を使うこと

で、細工が可能となる。特

に薄い花びらは亀裂が入

りやすく、完成まで細心

の注意を必要とする。

「透かし彫り」：素地が柔

らかいうちに、剣先で穴を

彫る。亀裂ができないよ

描き、立体感を出す。

「薄づくり」：「卵殻手」や

「薄胎」とも呼ばれる、光が

透けるほど薄い器。焼成

時に歪みや亀裂が出ない

ためには、高い技術力と良

質な陶石を必要とする。

みかわら焼の窯元

現在、三川内には三十

前後の窯元があり、伝統

の陶技を重んじ真摯に伝

習しながら、現代の感性

を加味した新たな作品を

生み出している。その中か

ら、今回、技法や作風の異

なる四名を紹介したい。

いる。代々伝わる「菊花飾

細工」は、花びらの筋まで

表現され、柔らかな立体感

がとても美しい。乾燥時や

焼成時の変形を予想しな

がら「ろくろ」をひく。薄く

削って「薄づくり」の器も

作る。立体的な絵柄の「置

き上げ」も近年取り入れ、

「染付」と組み合わせた新

作も完成させた。淡い呉須

が美しい「染付」などは家

族で分担している。

中里太陽

約四百年前に三川内

に窯を開いた陶工から、

を背負う中里氏の言葉に、

誇りと情熱を感じた。

「里見寿隆(嘉久正窯)

嘉久正窯は、約三百五

十年前に中里家から姓を

改めた里見家の窯元で、

写実的な絵柄の「染付」を

代々受け継いでいる。

八代目の里見氏はみか

わら焼の中核を担う一人

だ。他の夢以上にやりがい

を感じたのが今の仕事だ

という。若い頃に、京都・

清水焼の窯で学び、みかわ

ら焼を客観的に見るこ

とができた。窯元に生まれた

里見氏は「染付」を得意とし、細かな下描きはせず、位置を決めて描いていく。みかわち焼は狩野派の流れをくみ、パターン化した文様より一枚の絵を描くことが多い。華やかで繊細な牡丹唐草や、淡い呉須が美しい白梅や竹林など、代々受け継ぐ絵柄を家族と共に守りつつ、自分の作風へと昇華させている。

また、窯に伝わる明治から昭和初期の素焼き型を元に、花や葉の形の皿など、白磁の復刻も手掛けている。「陶磁器以外にも、漆器やガラスや織物など、魅力を感じる物を参考にして、普遍的な美を追求していきたい。」その表情は清々しく穏やかだった。

福本幸(玉泉)

福本家は、珍しい「透かし彫り」や複雑な立体作品を、約四百年にわたり代々継承し作ってきた。

十五代目の福本氏は陶芸を学んだ後、父から代

受け継ぎ、今は一人で「透かし彫り」の器を作っている。「透かし彫り」に最適な粘り気や水分量の陶石を探してブレンド。複雑な石膏型も自ら作り、剣先も彫りやすく改良している。神経を集中して作られる「透かし彫り」の磁器は、繊細でとても美しい。



作:福本幸

その他にも、龍などを彫り出した立体作品、オーダーメイドの大きな作品、現代アーティストへの協力など、仕事の幅は広い。

「みかわち焼の歴史や背景を知らない方にも魅力を感じてもらえる作品を目指して、新作を作り続けて

いきたい。」福本氏のものづくりに対する強いポリシーが感じられた。

今村隆光(光雲窯)

約四百年前にみかわち焼の土台を作った陶工の血を受け継ぎ、器作りに従事してきた家系の今村氏が、新たに一人で開いたのが光雲窯である。

昨年は日展に入選し、「現代の名工」に選ばれ、さらに注目を集めている。



作:今村隆光

「置き上げ」の技法をみかわち焼に復活させたのが今村氏だ。立体的な鶴の羽の一枚一枚や、細いくちばしと足から、手仕事の丁寧さが感じられる。白い立

体の絵柄が目立つように周辺を濃い青にしたり、逆に立体部分を淡い青にしたりと、技法にオリジナリティを加えて発展させている。

絵付け師の経歴を持つ今村氏は「染付」も得意とし、下描きせずに、呉須の色を使い分けて描く。特に個性が光る鯨は表情豊かで、鯨が身近な長崎にふさわしい。唐子は無邪気でいさいさとしている。

さらに形にもこだわり、鯨や花の形などの器も考案した。「ろくろ」をひき、薄く削って作ることも多い。「五十年間、楽しんで作ってきました。天職です。」と笑顔で言うその言葉は、作品にもよく表れている。

今後に向けて

四名に共通するのは、伝統に甘んじず、さらなる高みを目指す真摯な姿勢だ。間近で作品を見て魅力を知ると、今後も目が離せなくなるだろう。

◆ 作品展示会のご案内

みかわち焼 ～匠の技の継承～

■ 2014年4月22日(火)～6月1日(日)

紅ミュージアムではこの度、サロンスペース(入館無料)で作品展示会「みかわち焼 ～匠の技の継承～」を行います。今回ご紹介した4名の作品とともに、みかわち焼と「小町紅」のコラボレーション紅器も展示販売いたします。約400年間受け継いできた技法をさらに発展させ、それぞれの作風で丁寧に作られた作品を、是非ご高覧ください。

※「作家に学ぶ体験講座」を併催します。定員・参加費等は次ページをご覧ください。お申込みは紅ミュージアム(03-5467-3735)まで。

作家に学ぶ体験講座

■「透かし彫り」体験講座&作家と編集者によるトークショー
講師:福本幸氏・坂井基樹氏(編集者)
4月26日(土) ①11:00～12:30 ②14:00～15:30

■「染付」体験講座

講師:里見寿隆氏
5月17日(土) ①13:30～15:00 ②16:00～17:30

■「置き上げ」体験講座

講師:中里太陽氏
5月31日(土) ①13:00～15:00 ②15:30～17:30

◆紅ミュージアム年間スケジュール

	イベント	休館日・閉館時間の変更等
2014年4月	26(土) 「透かし彫り体験講座」&作家と編集者によるトークショー ①11:00~12:30 ②14:00~15:30 講師:福本幸氏(玉泉・みかわち焼作家) 坂井基樹氏(坂井編集企画事務所 編集者) 定員各8名・参加費3,500円(作家作品のお土産付き)	7(月)、14(月)、21(月)、28(月)
5月	17(土) 「染付体験講座」 ①13:30~15:00 ②16:00~17:30 講師:里見寿隆氏(嘉久正窯・みかわち焼作家) 定員各8名・参加費3,500円(材料費込み) 31(土) 「置き上げ体験講座」 ①13:00~15:00 ②15:30~17:30 講師:中里太陽氏(平戸洗祥団右工門窯・みかわち焼作家) 定員各8名・参加費3,500円(材料費込み)	7(水)振替、12(月)、19(月)、26(月)
6月	21(土) 「江戸の化粧再現講座」～基本の白粉化粧編～ 14:00~15:00 講師:当館学芸員 定員15名・参加費500円(紅染めの和菓子付き)	2(月)、9(月)、16(月)、23(月)、30(月)
7月		7(月)、14(月)、22(火)振替、28(月)
8月	8(金) 夏休み特別講座「夏休みこども自由研究 紅ってなあに」 ①11:00~12:30 ②15:00~16:30 講師:当館学芸員 定員各10名(親子2人1組で5組)・参加費無料	4(月)、11(月)、18(月)、25(月)
9月	27(土) 「和のパーソナルカラー講座」 14:00~16:00 講師:吉田雪乃氏(伝統色彩士協会 伝統色彩士) 定員10名・参加費2,000円	1(月)、8(月)、16(火)振替、22(月)、29(月)
10月		6(月)、14(火)振替、20(月)、 23(木)~31(金)展示替えのため
11月	1(土)~ 企画展・(仮)「カミさまさま~広がる和紙の世界~」開催 15(土) 企画展関連講座 「折形講座~江戸の優美なこころ・祝いの包み」 14:00~16:00 講師:有馬霞水氏(東横学園女子短期大学 名誉教授) 定員10名・参加費2,000円	4(火)振替、10(月)、17(月)、25(火)振替
12月	~14(日) 企画展終了(17:00閉館)	1(月)、8(月)、 15(月)~19(金)展示替えのため、22(月)、 27(土)~31(水)年末のため
2015年1月	24(土) 「江戸の化粧再現講座」～白粉化粧・比較編～ 14:00~15:00 講師:当館学芸員 定員15名・参加費500円(紅染めの和菓子付き)	1(木・祝)~5(月)年始のため、 13(火)振替、19(月)、26(月)
2月		2(月)、9(月)、16(月)、23(月)
3月		2(月)、9(月)、16(月)、23(月)、30(月)

*都合により、内容の変更が生じる場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

Information

かわら版

期間限定商品のご案内

伊勢半本店では、3月31日(月)まで小町紅『手毬』の春季限定柄3種(各9,450円)を販売いたします。今春は「桃香」「唐花」に加え、新柄「幸梅(さちうめ)」が仲間入り。いずれのデザインも華やかで愛らしく、雛祭りや卒業、入学、就職など大切な方へのお祝いの贈り物に最適です。



Since 1825
伊勢半本店 ミュージアム

●開館時間/11:00~19:00 ●休館日/毎週月曜日
(月曜日が祝日または振替休日の場合は、翌日が休館日となります)

東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F

TEL&FAX:03-5467-3735

東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」下車B1出口より徒歩12分

<http://www.isehanhonten.co.jp>